



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



平和実現のために祈りをささげよう

戦後七十年 今年のザビエル上陸記念祭

恒例のザビエル上陸記念祭が、八月十五日(土)ザビエル教会であった。今年の記念祭は戦後七十年という記念すべき年でもあったため、いつもにもまして「平和について考え」、「祈る」というプログラムでの実施となった。

日本の教会を代表して聖フランシスコ・ザビエルの偉業を称えるために記念祭を開催している鹿兒島教区。ここ数年はザビエル上陸記念碑のある祇園之洲公園からの徒歩巡礼とミサ、それに鹿兒島ユネスコ協会と協力して実施する「平和の鐘を鳴らそう」などをプログラムの柱にして実施してきた。

今年のザビエル祭を準備してきた実行委員会では、今年が戦後七十年という節目に当たることから「平和について考える記念祭にしよう」と徒歩巡礼をやめ、代わりに初めて聖体礼拝をプログラムに組み込んだ。初めての試み「聖体礼拝」は朝七時三十分から三時間にあたり主聖堂で実施された。始まりこそ数少なかったが、時間の経過とともに少しずつ数を増し、戦争の悲惨さを知る者、それを伝える者、それを知りたい者、それぞれが思い思いに平和の実現のために祈る静かな時を過ごした。



平和の実現のために謙遜が必要だと司教が講話

聖体礼拝後は、郡山司教と田中弘允氏(鹿兒島ユネスコ協会最高顧問)による講話があった。最初に講話した

郡山司教は、「人が罪を犯すのは己の力への過信から」と強調。「イエスがこの世に剣を持ってきたと言われたのは、心の中になければよい思いなどをそぎ落とし、謙遜な者となれという意味。謙遜とは神がどんな人間であるべきかを示し

また学生時代は「空軍に入り鬼畜米英を抹殺したかった」という田中弘允氏は、「穏やかだった自分に殺人を正当化させた戦争をもう二度と起こしてはならない。そのためにも一人ひとりの心に平和の砦を築かななくてはいけない」と語り、

テーマは「であい」

教区中高生がサマーキャンプ

教区青年会(岩崎信幸会長)は八月十六日(日)から十七日まで、川内教会で中高生サマー・キャンプを行った。中高生対象のキャンプは、教区青年会では初めての試み。海水浴やバーベキュー等、夏ならではの

プログラムを通して、小教区を超えた中高生間の出会いと交流が生まれた。教区青年会では今年、小教区の枠を超えた中高生の交流と活動の場を設けようと中高生サマー・キャンプを企画。初めての試みのため、まずは互いの親睦を図ることを目的とし、テーマを「であい」とした。



十六日、参加者はザビエル教会に集合した。郡山健次郎司教から祝福を受け、川内教会へと出発。同教会到着後に、オリエンテーション。岩崎会長からプログラムの説明があり、中高生からスタッフまで各々が自己紹介した。海水浴は西方海岸。夏の海を満喫した後は、高城温

ユネスコ協会の活動を紹介するとともに、人々の心に平和を築く役目を担う宗教家たちに尽力して欲しいと願った。その後は正午の時報に合わせるようにカテドラルの鐘が鳴らされ、鹿兒島の町に平和を願う鐘の音を届けた。鐘の音に平和の大切さを感じた信者たちは、その後、主聖堂で聖母被昇天のミサにあずかった。この日のミサには、約二百八十人の信徒が参列し二十人余りの司祭・助祭団とともに聖母マリアの取次により、世界平和実現を祈った。ミサ後は一階ホールで軽食による分かち合いが行われ、信者だけでなくユネスコ関係者、諸宗教の代表者たちが心の交流をした。

泉へ。海遊びの疲れを癒した。夕食は教会でバーベキュー。生憎の雨となったが、花火大会を愛でつつ舌鼓を打った。翌十七日。ミサの前、「良い出会いって、何だろう?」をテーマに分かち合い。前日の海水浴、バーベキュー、花火見物等を通して打ち解けた雰囲気も手伝って、和気あいあいとした中で互いの気持ちや考えを

伝える。ミサは、末吉卓也神父(教区本部事務局)が司式。川内教会主任司祭の大松正弘神父も参加、出水教会主任司祭の萩原義幸神父はギター伴奏で加わった。説教では末吉神父が「キャンプの出会いから、若者たちの豊かな共同体が育つよう祈ろう」と呼びかけた。キャンプには谷山、国分、大口、吉野の四教会から七人の中高生が参加した。谷山教会の坂元豪さん(中学一年)は「キャンプでたくさんのおいしい出会いがあった」と笑顔。国分教会の森山天海さん(中学三年)は「いろいろな人との初めての出会いが嬉しかった」と話した。また、岩崎会長は中高生キャンプを「今後も続けていきたい」とし、「クリスマス後にも実施できれば」と意欲を示した。(報告 諏訪勝郎神学生)

9月27日は 世界難民移住移動者の日

毎年九月の第四日曜日とされている「世界難民移住移動者の日」は、一九七〇年、時の教皇パウロ六世が教皇庁移住・移動者司牧評議会を設立したことを受け、「各小教区とカトリック施設が国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と『共に生きる』決意を新たにする日」として設立されました。「世界難民移住移動者の日」では、おもに滞日・在日外国人、海外からの移住労働者、定住・条約難民、外国人船員や国際交通機関の乗組員とその家族のために「祈り・司牧的協力・献金」がささげられ、それらは日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられています。

修道会日より

▼ポルティユの御摂理修道女会 二〇〇九年秋に来鹿し阿久根修道院を設置したポルティユの御摂理修道女会(本部パリ)に六月、ベト



ナムから新たな会員二人が加わった。新しく教区で働くことになった二人の修道女は、ムエンティ・アイヌ④とドンティ・アンティ⑤の二人のベトナム人シスター。二人とも幼稚園や老人施設で働いた経験を持っている。(写真は院長のシスターリエンと一緒に二人)

朴鎮亮師司祭に

ベネディクトさんの愛称で親しまれている韓国人朴助祭が司祭に叙階される。ザビエル教会での式典は九月六日(日)十四時から。当日は車の乗り入れ不可となっている。

糸永名譽司教の様子

七月、脳梗塞で市内の病院に入院した糸永真一名譽司教は八月に退院。現在は唐湊の司教館で療養中。

司祭を目指しローマ留学②

教区大神学生 霧島 彬さん



ローマでの生活の最大の特徴は、やはり教皇様との近さです。神学校からバチカンへは歩いて行ける距離(徒歩二十五分)なので、友達同士誘い合ってしばしば日曜日のお告げの祈りに行っています。

またサン・ピエトロでの教皇様の御ミサにも何度かあずかることができました。とくに印象に残っているのは昨年四月二十七日のヨハネ二十三世とヨハネ・パウロ二世の列聖式に参列したことです。しかし本当に大切なのは、この物理的な近さを通して教皇様のための祈りと犠牲、そして子としての一致と忠実の心を養うことだと思えます。ローマ滞在期間を通して教皇様への愛を深めたいと思っています。

学期中「セデス」の神学生はみな聖十字架大学で学びます。学部の講義は基本的にすべて午前中に行われるので、午後の時間は個人的な学習やその他の活動にあてていきます。大学には私たちのほかに、オプス・デイのメンバーの方やローマ市内の他の神学校や修道会の神学生、また信徒の学生も在籍しており、様々なキリスト教的伝統や文化的背景の人々と知り合うことができますので、充実した講義内容そのものと合わせ

て、本当に貴重な体験の場を与えられていると痛感しています。

また学習以外にも神学生には毎週、主として土曜か日曜に、ローマ市内の小教区や老人ホーム等の施設での司牧実習の割り当てがあります。学期中はそれぞれの現場の司祭・修道者の指導の下、様々な研修を通して司祭的な心の形成を目指します。昨年度の私の実習先は神学校近くのサンタ・フランチェスカ・ローマナ老人ホームでした。そこでは主日のミサの手伝いを中心に、他のボランティアの方々と協力して奉仕していました。そして夏期・クリスマス・復活祭前後のまとまった休暇の間には、ローマを離れてイタリア各地の小教区や施設に派遣されます。

私の場合、昨年の夏季休暇の七月はイタリア北部のブレシア教区のアルフィアネッロ小教区へ、八月はやはり北部のヴェローナ教区の老人ホームへ派遣され、つづくクリスマス休暇と復

活祭休暇には夏期休暇と同じくアルフィアネッロ小教区へ行ききました。夏休みの子どもたちのためのプログラムや、伝統に裏打ちされた典礼・民間信心の実践、教会・司祭と地域社会のかわり方などをじかに見て体験することは多くの刺激と気づきを与えてくれました。

サマーファミリリーキャンプ

奄美地区教会学校が古仁屋で開催

今年六月、「奄美地区宣教司牧を考える会」の新メンバーが一堂に会して、地区長永山幸弘神父様のもと



キラキラ輝いた子どもたちでした

で今年度の活動をスタートさせました。早速、教会学校担当の八人の委員は大熊尾泰英神父様を中心

に、恒例となっている奄美地区教会学校の「サマーファミリリーキャンプ」について話し合いました。台風の影響を心配しながらの催しとなりましたが、七月二十八日(火)から二十九日(水)まで島の最南端瀬戸内町の古仁屋教会と隣接の古仁屋信愛幼稚園を会場に、島内から小中学生十七人が共

す。以上、ローマでの神学校生活の一端を記してみました。本当に充実した毎日だと思えます。最後になりますが、この貴重な学びと養成の機会を与えてくださり、そしていつも祈りで支えてくださっている司教様、神父様方、

すべての鹿児島教区の方々。心より感謝いたします。どうぞこれからも、私を含め鹿児島教区の神学生、そして世界中の神学生が主の召命に忠実にこたえていけるようご支援とお祈りのほどよろしくお願いいたします。

伊集院巡礼のご案内

九月二十七日(日)午前六時半、ザビエル教会集合。どなたでも参加可。持ち物はロザリオ、飲み物、おやつ、弁当(当日予約可)、動きやすい服装・運動靴(片道二十四キロ)。現地で感謝のミサ後解散。主催は青年会。

ことができました。この計画を進めてくださった栃尾神父様と十二月に司祭叙階を迎えられる貴島丈弥助祭の働きは、司祭、修道者、信徒の一致した姿を子どもたちに印象づけるよい機会となったようでした。

また各教会から同伴してくださった大人たち二十五人の協力は、子どもたちに大家族に見守られる安心感と温かさを感じさせ、新しい友との出会いを実現してくれたのです。

神様の創造された美しい海、山で初めて出会う友と泳ぎ、食し、初めての教会で祈り、遊び、枕を並べた経験は、一人ひとりの喜びとなり、有意義な集いとなりました。(報告 西山晃代修道士)

司教執務室便り

島田喜蔵神父を思う

先月、ふとしたことから、島田神父様についての本(隠れキリシタンから司祭に―トマス島田喜蔵神父の生涯―中田秀和著)を読む機会を得た。神父様については無知に等しかったのでとても興味深く読みました。九月十五日は、司教座聖堂献堂記念日でもあることから、にわか知識だが、神父様のことを少し分かち合ってみよう。

神父様は明治維新の十二年前の一八五六年、隠れキリシタンの家庭で生まれました。十一歳の時、母親の薦めで司祭を志すことに。しかし、禁教令下の当時、大浦教会の司祭館に身を隠しながらの生活を余儀なくさ

された。その後、他の志願者たちと共に香港に逃れ、パリ外国宣教会にかまわれすることに。そこでマゲを落とすことになったというくだりは笑えない。「マゲがぼたりと落ちた時は首を落とされたようで、永久に日本から捨てられたように感じ、涙が出るほど悲しかった」(50頁)。やがて、横浜に送られて最終的には長崎の神学校で学ばれた。興味深いのは、その前の二、三年、試の間として社会に出されたこと。神父様は、小学校の先生になったという。こうして、落伍者も出る中で、一八八七年三十一歳で司祭に叙階された。五島初の司祭。



正義と平和協議会からご案内「学習会・分かち合い」

「荒れ野に公平が宿り園に正義が住まう。正義が造り出すものは平和であり正義が生み出すものはとこしえに安らかな信頼である。」(イザヤ32・16、17)

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイ5・9)

①学習会
日時 9月19日(土) 14時
場所 ザビエル教会要理室
テーマ「信教の自由と政教分離」
・現行憲法における「信教の自由」「政教分離」とは?

・カトリック教会の考えは?
・自民党憲法改正案が施行されると、どう変わるか?
参考文献「信教の自由と政教分離」(2007年 カトリック中央協議会発行)

②定例「学習会と分かち合い」
日時 毎月第三土曜日午後2時から
どうぞ、ご自由にご出席ください。
連絡先 「鹿児島正義と平和協議会」 山下和実
TEL 080 (1704) 8315

みんな神さまの子ども

マリア山荘で夏休み子ども大会

第三回夏休み子ども大会(聖書学校)が、八月三日(月)から五日(水)まで、マリア山荘(溝辺教会)であった。二泊三日の共同生活を通して、聖フランシスコ・ザビエルの生涯を学びつつ、ヨハネの黙示録三章20節のみ言葉について考えるのが今年の課題。最終日には、子どもたち自らの思いをザビエルに宛てたためた。

夏休み子ども大会は今年で三回目。近年、各教会では少子化や習い事等による生活の繁忙により、単独での夏休みキャンプなどの実施が困難な傾向にある。教区では教会の枠を超えた取り組みが必要と考え、毎夏、大会を教区全体の行事として位置づけ、行っている。

大会では毎年、合宿生活を楽しまただけでなく、テーマを設け学びの場となるよう工夫。今年は「みんな神さまの子ども」がテーマ。ザビエルの生涯を学び、「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするのである」と。

四日。ミサでは泉神父が「信じる心を神さまは待っている。信じれば信じるほど、神さまの思いが分かるようになる」と説教。黙示録のみ言葉を触れ、「神さまは何を言おうとしているのか、心で考えてください」と話した。

朝食後、「みんな神さまの子ども」をテーマに、スタッフとして参加した教区の神学生と志願生の話聞いた。韓国で学ぶ韓国人神学生、ローマで学ぶポーランド人の血を引く始良出身の神学生、長崎の小神学校とコレジオを経て現在、東京



公園で水遊び。笑顔いっぱいの子どもたち

「信じる心を神さまは待っている。信じれば信じるほど、神さまの思いが分かるようになる」と説教。黙示録のみ言葉を触れ、「神さまは何を言おうとしているのか、心で考えてください」と話した。

夕方まで、滝のある湧水施設「じゃぶじゃぶ池」での水遊び、スイカ割りなどを楽しんだ。夕食は山荘でバーベキュー。続いて花火に興じた。最終日の五日。朝食後、子どもたちはザビエルへの手紙に取り組んだ。二泊三日の生活を通して学んだことや自らの思いを原稿用紙に。遠い道のりを福音宣教のため来日したザビエルへの感謝や「新しいお友だちと出会え、神さまの子どもとして、仲良くなれてよかった」などの言葉が綴られた。

今年、大会に参加した子どもは鴨池、国分、谷山など五教会から十四人。大会後、「神父になりたい」と告げる子どもや、「シスタ

そのことで神さまのことにきょうみを持ち、神さまのことが少し知れました。ザビエル様のようなりっぱな人になれるように、ぼくは少しでもどりよくしていきたくと思います。

ザビエル様へ
吉野教会 池堂穂貴
あなたが全国に、お祈りを広めてください。お祈りを広げてください。

【フベナ】教区フェスタのため(3日~12日)
【祈禱の使徒会】世界共通・若者に機会を
宣教・カテキスタ
日本の教会・高齢者の尊厳

子ども大会で綴った

ザビエル様への感謝の手紙

ザビエル様こんにちは

国分教会 別枝春奈

私はあなたのおかげで、このキャンプに参加することができました。

ザビエル様が様々な国にキリストのことを伝えてくださったおかげで、教会に行くこともできまし、イエス様、神様のことを知ることができました。

私が、あなたのおかげで行くことができたこのキャンプで一番心に残ったことは、あなたのことを知ることができたことです。このことであなただけをもちろ、あなたを知ったことは絶対に忘れません。あなたのことを学ぶことは、とても楽しかったです。

ザビエル様へ

吉野教会 池堂穂貴

あなたが全国に、お祈りを広めてください。お祈りを広げてください。

もしあなた様が、いなか

大切なことを知らなかった

かもしれない。だからこ

そ、あなた様が「お祈り」

ということを知らせるため

に、生まれてきてくれたの

かもしれない。

+KABAYAN SEKSIYON+
Thomas More, Isang Laiko
"Sekular" na Santo

Kung ang pagsasabuhay ng pananampalataya sa mundong sekular ang mapagkakakilanlan sa bokasyon ng laiko, makikita sa simbahan ang isang pambihirang halimbawa kay Sir Thomas More. Isinilang sa London, nag-aral sa Oxford at nagtapos ng abogasya sa London. Kasal siya sa kanyang asawa at may apat na mga anak. Isa siyang mahusay na abogado; pinili siya ni Haring Henry VIII para magtrabaho sa kanya, hinirang siyang bilang isang knight, at ginawa siyang Lord Chancellor ng Inglatera.

Nang magkaroon ng isyu ukol sa diborsiyong hinihingi ni Haring Henry, hindi siya kayang suportahan ni Sir Thomas. Nagbitiw siya bilang chancellor at nagretiro sa buhay publiko. Tumanggi siyang pirmahan ang bagong Act of Succession at siya'y ipiniit sa Tore ng London. Ipinatapat si More noong 1535, at nanatiling tapat sa kanyang konsiyensya.

Ang mga huling wika ni More ay nagpapakita ng kanyang katapatan: "Mamamatay ako bilang mabuting alipin ng Hari, ngunit ako ay una para sa Panginoon." Ang buhay ni More ay magandang naisapelikula sa A Man for All Seasons, na kapupulutan ng maraming mga aral. Halimbawa, binigyang diin ni More: "Naniniwala ako, kapag ang isang taong gobyerno ay tumalikod sa kanilang konsiyensya sa pagganap sa kanilang tungkulin sa publiko...pinamumunuan nila ang bansa sa pinakamaigsing daan tungo sa kaguluhan." Si More, "isang laiko at isang secular na santo" ay kinilalang Santo ng Simbahan noong 1935.

Katesismo sa "Taon ng Laiko (Fr. Dino Orolfo)

会と催し (9月)

6日(日) 年間第二十三主日
ベネティクト・朴鎮亮師司祭叙階式・ザビエル教会・14時

8日(火) 聖マリアの誕生
教区典礼委員会・教区本部・19時

13日(日) 七田和二郎神父命日(一九八九年)
年間第二十四主日
教区フェスタ・ザビエル教会・13時

14日(月) 十字架称賛

15日(火) 糸永真一名誉司教司祭叙階記念(一九五二年)
教区巡礼委員会・教区本部・19時

20日(日) 司教座聖堂献堂記念日
年間第二十五主日

21日(月) 聖マタイ使徒福音記者
年間第二十六主日

23日(水) ダニエリ神父命日(二〇〇三年)
バルビニ神父命日(二〇〇四年)

26日(土) パストラルケア・教区本部・14時
宣教学校・ザビエル教会・13時30分

27日(日) 年間第二十六主日
世界難民移住移動者の日

29日(火) 聖ミカエル聖ガブリエル聖ラファエル大天使
ティエン神父霊名(聖ガブリエル)

文芸

俳句

国分教会 政ノブ子
主の恵み上棟祭や蟬時雨
棟上げの祝に集う葉月かな
谷山教会 東 健一郎
バイブルに心静めて今朝の秋
吉野教会 徳永ノブ子
忘れ得ぬ事の多々ある原爆忌
病葉のはらはら散るを踏みしめて

鹿児島純心 川上 和
平和の鐘心に響け七十年
奄美市 林 常広
位牌見てお盆近しと妻徳ぶ
出水教会 遠竹陸郎
園児らの礼儀止しき夏日かな

短歌

鴨池教会 前田儀子
聖書の解読にはなほ物足り
ず自らの予兆的解釈をなせるパスカル
吾亦紅のくらし朱の実乾きつ
つ羊茱の複製動くは蜥蜴か
みづいろの空やはらかに昏れゆきて樹樹は濃き影地表に落す

鹿児島純心 川上 和
原爆の乙女の叫び今も聞く
平和の願い祈りに込める
出水教会 遠竹陸郎
飾りたる教皇の写真見上ぐれば吾は自ずと心安らぐ
老ひの知恵説く教皇の説教をDVDにて吾は聞きたり

カトリック幼稚園研修会に参加して

子どものかかわりを学習

恒例のカトリック幼稚園教師研修会が七月に開催された。テーマはカトリックの精神。参加者の感想を紹介したい。

亀津幼稚園 実島綾香

私は今回初めてカトリック幼稚園教師研修会に参加させていただきました。今回の講演のテーマが「カトリックの精神」ということで、最初は私に理解できるのか、その精神を子どもた

ちに伝えることができるのか、不安を抱いていました。しかし、下町神父のお話はとても分かりやすく、神父の生い立ち、紙芝居や読み聞かせを通して、カトリックの精神を伝えていただきました。

一番心に残っているのは「神様に見守られていると同時に、私たちが神様が喜ぶことをしなさい」というお話です。日頃の保育で「神様に見守られている

いつも一緒にいてくださっているんだよ」と子どもたちに伝えていきます。それだけではなく、神様が喜ぶことってなんだろう、どうしたら喜んでくれるのかというのを子どもたちに考える時間を作ってあげたいと思います。他にも「今ここにこうしていられるのも何かの使命だ」とおっしゃっていました。

子どもたちに神様の愛も同時に伝えていけたらと思います。講演が終わった後には夕食があり、いろいろな幼稚園との交流ができ、また同じ園の職員との仲を深めら

れる時間となりました。終わってからも大浴場でお話をする機会がありました。二日目には分かち合いもあり、それぞれの幼稚園で行っていること、ふだんの保育での悩みなど広い範囲の話を聞くことができました。ふだんの保育で子どもたちに「マザーテレサの百の教え」という書物を読んでいます。とてもいい言葉で自分たちも勉強になるというお話を聞きました。

聖書の言葉をたくさん読み、それを伝えていくことはとても大切なことだと改めて感じました。今回の研修で学べるものがたくさんあり、参加させていただけただけにとでも感謝しています。これから保育に生かし、カトリックへの理解をより深めていきたいと思いました。

出水聖母幼稚園職員

七月二十三、二十四日に第四十六回鹿児島教区カトリック幼稚園教師研修会が行われました。

違いを学んでひとつに

プロテスタントの兄弟たちに講話

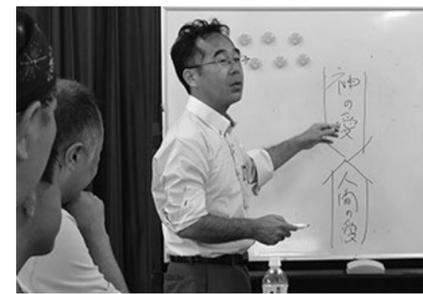
吉野教会主任司祭 鈴木康由

「沖縄キリスト伝道会」(会長＝日本基督教団読谷教会牧師具志堅篤)と称される日本基督教団の牧師と信徒のための学習会に講師として招かれました。

本来、この会では毎年、プロテスタントの神学者が招聘されるようですが、今回は「カトリックの信仰から学ぶ」という目的をもって開かれたことから、司祭が講師と呼ばれたわけ

です。先方からの依頼もあって、「カトリックとプロテスタントの違い」、「カトリックの信仰」、そして「マリア論」が講話の内容の中心となりました。

一回二時間、合計四回の質疑応答とディスカッションを含んだ講座は毎回、その時間の長さを感じさせないほど面白く、また興味深いものとなりました。日程の関係から八月三日(月)から四日までの間、一日に二回の講話という凝縮した計画でしたが、午前と午後を通じて集中力が途切れることなく、真摯に話を聞いてくださる牧師先生方の熱心さには心を打たれるものがありました。また、積極的な意見交換ができたことにより、双方の理解を深めるともよい機会となったと思われま



毎回の講座の中で参加者

講師は福岡教区の下町豊重神父様で、「カトリックの精神」について話して下さいました。まずDVDを観たのち、講話が始まりました。「言葉＝言葉」である生きた言葉を使っている意識を持って子どもたちや周りにいる人とかかわっていくことで、愛の生き方を伝えていくことができるというお話でした。日頃、何気なく発している言葉一つひとつが生きている。そう思うと「自分の保育や周りの人とかかわり方が、ただなんとなく過ぎてしまっ

てはいないだろうか」と振り返ることができました。毎日を丁寧に生きる、そう意識することによって言葉ひとつ、動作ひとつに心が込められていくのではないかと思いました。

いよいよ二学期が始まります。神さまはどんな人も大切にしてください。その愛を私たち自身が大切な一人ひとり丁寧に伝えることのできるようになります。

「い」となります。この言葉は、不平を吐く者は良いもの、即ち、神の国の福音に目を向けていない、ということを表しています。また、「眼が悪い」とはイザヤの預言を踏まえて、神様の御旨を理解しないことの象徴であると考えられます(マタイ13・14、イザヤ6・10)。

神の国とは善行に対する報いではありません。労働者がそうであったように、たとえそれが何時のことであっても、イエス様の教えを悟り、それを生きようとするにより、迎え入れられるものが神の国なのです。

鈴木神父のやさしい言葉

ぶどう園での出来事

イエス様のたとえ話は常識ではなく神の国から読み解くことが必要となります。こうした視点から「ぶどう園の労働者」のたとえ(マタイ20・1-16)を確か

に、早朝から長く働いていて夕方に僅かしか働いていない者の賃金が同じであることは些か不当であるかのように思えてしまいます。しかし、別段、個々の契約が反古にされたわけではありませ

ず。このたとえは「天の国は次のようにたとえられる」という言葉から始まり、「後にいる者が後になる」と結ばれています(マタイ20・1、16)。ということ

は、この話は賃金のことではなく、天の国に入る順番が問題となっていることに注意が必要です。ここでは、

主人と労働者の契約は成立

する

する

する

